

# 共に闘う仲間たちが集結

## 働く者の団結で生活と権利、平和と民主主義を守ろう



東京清掃労働組合  
 千代田区飯田橋3-9-3  
 TEL (3237) 9995  
 1部20円  
 編集責任  
 企画・総務局  
 斉藤 幸司

### わが組合の綱領

- 一、われわれは健全なる自主的組織を確立し、生活諸条件を確保し、社会的地位の向上を期す。
- 二、われわれは労働の社会的意義を顕揚し、都区政の徹底的民主化を期す。
- 三、われわれは労働者階級の解放と民主主義日本を建設し、世界平和に貢献せんことを期す。

# 第87回中央メーデー 第87回日比谷メーデー

5月1日(日)第87回日比谷メーデーは、議長に中里中央副委員長が選出された後、熊本地震で犠牲になられた方々のご冥福を祈るため、集会参加者全員の黙祷から始まりました。「働く者の団結で生活と権利、平和と民主主義を守ろう」をメインスローガンに青年部、女性部、退職者会含め600名を超える仲間が集結しました。シュプレヒコールを力強く唱和しながら

行進をおこないました。また、4月29日(金)第87回中央メーデーが快晴のもと開催され、我が組合として93名が参加。千駄ヶ谷区民会館での集会をおこなわれたのち、中央メーデー会場である代々木公園までデモ行進をおこないました。

(西村 好勝)



デモ行進先頭は本部4役



第四地連



議長団に選出された東京清掃本部中里副委員長



第一地連



第五地連



第三地連



銀座をデモ行進・家族で参加(上)



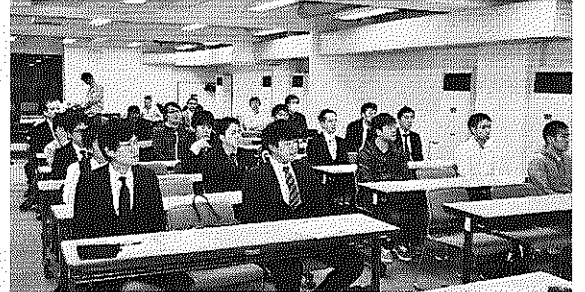
第三地連



# 新入組合員歓迎学習交流会 新たな仲間と 交流を深める

SKホールにて新入組合員歓迎学習交流会が4月28日、盛大に開催されました。

第一部の学習会は、齋藤書記次長の司会で始まりました。桐田中央執行委員長から、東京清掃の活動として自治研を中心とした「質の高い公共サービスの提供」の取組みについての説明が丁寧述べられました。また、ラグビーの精神である「One For All, All For One」一人はみんなのために、みんなは一人のためには、組合活動にも通じるものである。今後もスクラムを組んで共に闘いましょう」と激励の言葉をいただきました。



明が丁寧述べられました。また、ラグビーの精神である「One For All, All For One」一人はみんなのために、みんなは一人のためには、組合活動にも通じるものである。今後もスクラムを組んで共に闘いましょう」と激励の言葉をいただきました。

また、高木青年部長からは、労働組合の役割と存在意義について報告がなされました。説明の最後に全員でシュプレヒコールを唱和しました。

その後、自治労共済の紹介をはさみ、第二部の交流会にはいりました。青年部が司会進行を行い、新入組合員からの自己紹介と共に意気込みや決意が表明され、同期に加入した仲間同士が労働運動を通じて共に闘い励まし合うことを確認しました。

青年部は、様々な可能性を持っていることから、今後の組織形成に欠かせない存在です。したがって、若手組合員に学習と交流の場を提供することは、組合に対する正しい理解を促す意味でも、我々に課せられた責務です。組織全体で青年部運動の活性化に取り組んでいきましょう。

(西村 好勝)

## 真の「安定的で持続可能な清掃事業」に向けて 将来的な可燃ごみ収集の再直営化も 含めた闘いが今まさに始まっています

いま No.14  
清掃事業は・・・  
▶▶▶ 大田区



安全作業に気を配りながらの作業



体験学習で真剣に耳を傾ける児童たち

大田総支部の組織人員(2015年4月現在)は、定年前職員280人(蒲田101・大森84・調布66・多摩川29)と再任用職員16人(蒲田6・大森4・調布6)の計296人となっています。また、配置人員としては2015年度から採用している非常勤職員22人(蒲田9・大森8・調布5)を加えると合計で318人になります。

区移管以降、各区においては様々な取り組み等によって区の「独自色」が強まっていく中、大田区においては集積所による収集はもとより、可燃・不燃ごみはすべて直営、また事業所職場が独立して存在するなど、東京都時代からの体制のまま推移してきました。しかしその一方で、人員については土木・公園職場からの転職異動(2004年から5ヶ年計画で延べ68人)があったものの、新規採用に関しては2002年を最後に14年間行われていないため、ただでさえ逆三角形の年齢構成にさらに職員の高齢化が加わり、将来における清掃職場の継続性が危機的な状況となりました。

こうした中、昨年度から「安定的で持続可能なごみ収集体制の構築」について(9月24日区長決定)と、それに基づく「清掃事業における収集体制の見直し」が12月10日に示されました。その内容は、可燃ごみの収集業務を平成29年4月1日より年度ごとに見直しを行い、最終的には一部(軽小業務)を除き業務委託を行うというものです。しかも、この取り扱いについては「行政の企画・立案・執行に関する事項に該当する」ので管理運営事項として扱う」としてきました。

これ以降、大田総支部として機関会議や職場集会における議論や意見集約をはじめ、数十回にわたる当局との意見交換の場(管理運営事項と技能長の増員を実施していくことも確認しました)。

今回、可燃ごみ収集の業務委託について私たちは「判断」をしました。これは闘いの一つの通過点であると思っていますし、決して「認めたく」わけでも「負けた」わけでもありません。むしろ、公共サービスを提供する側と享受する側の双方にとって、真の「安定的で持続可能な清掃事業」をいかに確立していくか、もちろん将来的な可燃ごみ収集の再直営化も含めて、その闘いが今まさに始まっています。今後の大田区清掃事業に、私たちの思いを描く「将来像」をしつかりと実現させていくため、引き続き大田総支部は一丸となって全力で取り組んでいきたいと思っております。(大田区担当中執 高橋 正幸)

こうした組合員の職場からの力を背景に、将来的な事業の継続性を当局に認めさせるとともに、あらたな清掃事業を確立すべく激しく粘り強い議論を積み重ねてきた結果、3月11日の団体交渉に準じた場において、それまで新規採用の「し」の字もなかった状況から、ようやく新規採用の「実施」を獲得することができました。また、新規業務の開始・拡大や現在の業務実態の改善から、技能長の増員を実施していくことも確認しました。

今回、可燃ごみ収集の業務委託について私たちは「判断」をしました。これは闘いの一つの通過点であると思っていますし、決して「認めたく」わけでも「負けた」わけでもありません。むしろ、公共サービスを提供する側と享受する側の双方にとって、真の「安定的で持続可能な清掃事業」をいかに確立していくか、もちろん将来的な可燃ごみ収集の再直営化も含めて、その闘いが今まさに始まっています。今後の大田区清掃事業に、私たちの思いを描く「将来像」をしつかりと実現させていくため、引き続き大田総支部は一丸となって全力で取り組んでいきたいと思っております。(大田区担当中執 高橋 正幸)

震災7の激震が2度も発生した熊本地震。千回を超える余震が続く。その影響は、大学生の生活にも暗い影を落としている。特に、来年春の入社を目指し就職活動をする4年生は、思うように就活を進められず、焦りを募らせているようだ。

▼大学の就職課には、パソコンが使用せず書類を提出できなかったり、説明会や面接に参加できなかったりした被災学生から多くの相談が寄せられているという。

▼メンタル面での支援も必要だろう。被災の状況によっては就活を考える余裕がなく、就活に集中できないといった訴えが増える可能性がある。こうした声にはきめ細かに対応しなければならぬ。▼就活は学生にとって人生の大きな岐路だ。東日本大震災など過去の経験から学び、適切な支援の手を尽くすべきではないだろうか。



《ひとこと》

(S区、S-I)